

工場見学会のお知らせ

おかげさまで、ご好評につき、今般、埼玉工場におきまして、株主様向けの工場見学会を開催いたします。皆様のご応募をお待ちしております。

開催概要

見学場所：埼玉工場(埼玉県深谷市)
同工場では、ホンダ様のフィット、ヴェゼル、ステップワゴンなどの車体部品を生産しております。

集合・解散：JR熊谷駅 改札口(バスにて埼玉工場まで送迎いたします。)
※お車等での直接のご来場はご遠慮ください。

開催日程：2020年3月24日(火) 13:15集合(予定)

内容：概要説明の後、徒歩にて構内をご見学いただく予定です。

対象者：2019年9月末時点の当社株主様

募集人数：20名程度

参加費：無料(但し、集合・解散場所までの交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。)



応募要領

応募方法：同封の「株主様アンケート」に記載の「工場見学会へ出席をご希望される株主様」の欄に必要事項をご記入の上、ご返送ください。

応募締切：2020年1月10日消印有効とさせていただきます。

当選発表：応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。当選発表につきましては、2月下旬発送予定の当選通知をもって代えさせていただきます。その際、当日の運営等詳細もあわせてご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報、本見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。

お問い合わせ先

株式会社ジーテクト 工場見学会係

電話番号 048-646-3404 9:00～17:00(土、日、当社休日を除く)

前回実施の見学会(ジーテクト東京ラボ(GTL)見学会)の様様

当日は19名の株主様にご参加いただきました。また、ラボ内のほか、隣接する工場(羽村事業所)もご見学いただきました。

開催日時：2019年10月1日(火) 14:00～16:00

開催場所：ジーテクト東京ラボ(GTL)

ご参加いただいた皆さまの声(抜粋)

- ホットスタンプのプレス機が大型で迫力がありました。
- 思った以上に部品が多く、さらなる開発を期待できそうに思いました。
- 「CASE」に関連する電動化に耐えうる可能性を感じました。etc.



ラボ内ご見学の様子



工場(羽村事業所)のホットスタンプご見学

ご参加誠にありがとうございました。

株式会社ジーテクト

本社 〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-20

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

株式会社ジーテクト

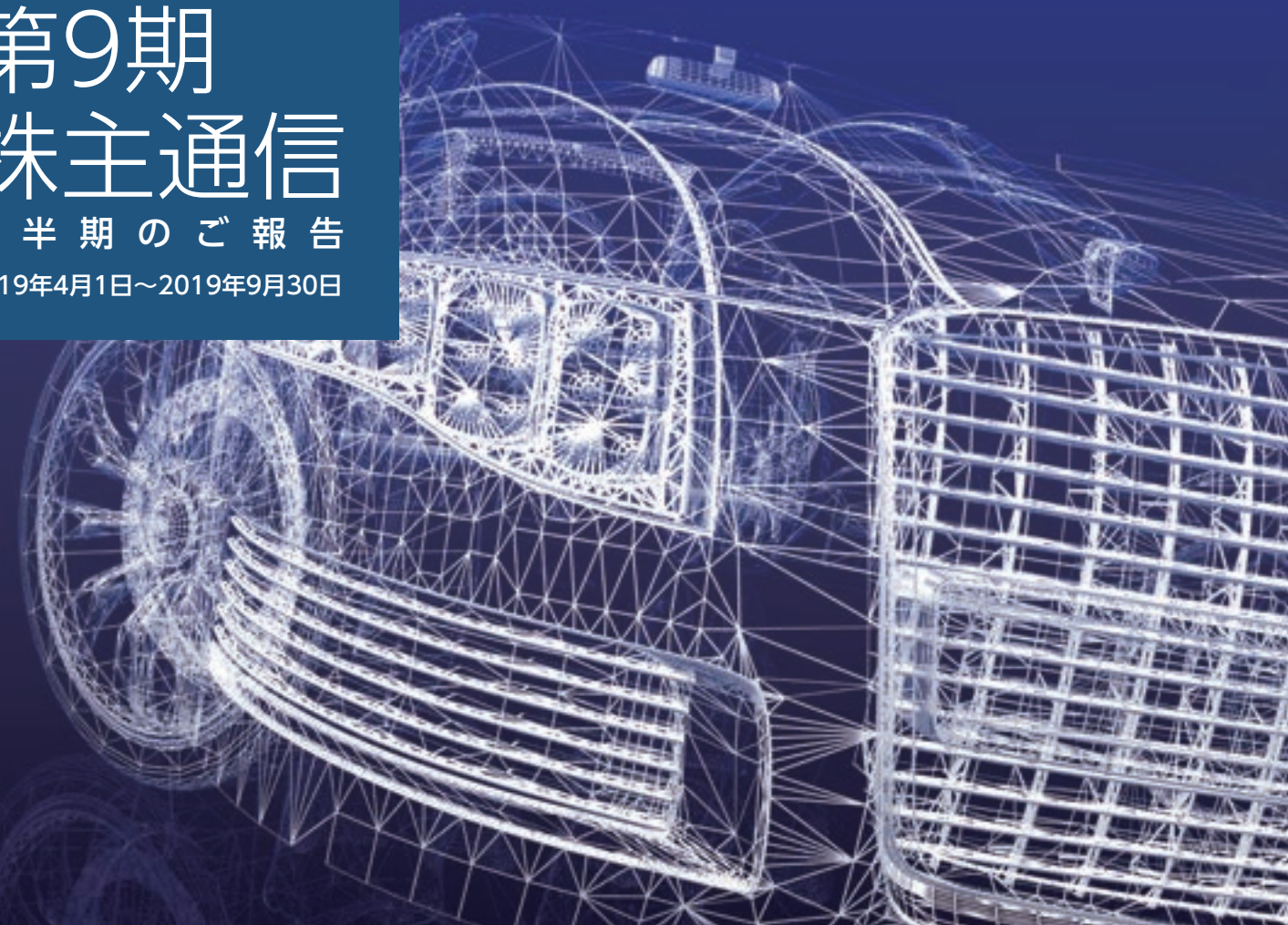
証券コード：5970



第9期 株主通信

上半期のご報告

2019年4月1日～2019年9月30日



Shape the Future

～人とクルマと地球の未来の姿をかたちづくる～

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

現在、自動車業界は、コネクテッド(繋がる)、オートノマス(自動運転)、シェアリング(共同所有)、エレクトリック(電動化)の「CASE」と呼ばれる急激な変革期にあり、中でも電動化がさらなる車体の軽量化を求めています。

この変化を的確に捉え、成長を続けていくためには、当社で働くすべての人が活躍し、成長できる企業へと体質を強化し、時代の変化に対応していく必要があると考えております。

当社では、「Shape the Future」をコーポレートスローガンに掲げています。このスローガンの下、既存の価値観にとらわれず、企業と人がともに成長できる環境をつくり、開発力・技術力・人財リソースを最大限活用して、次世代の革新的で軽量かつ高剛性な車体を創造し、人とクルマと地球の未来の姿をかたちづかっていきます。

これからも、持続的な成長と進化を遂げるべく、時代の先を読む攻めの経営とイノベーションにより、力強く経営の舵取りを行ってまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2019年11月

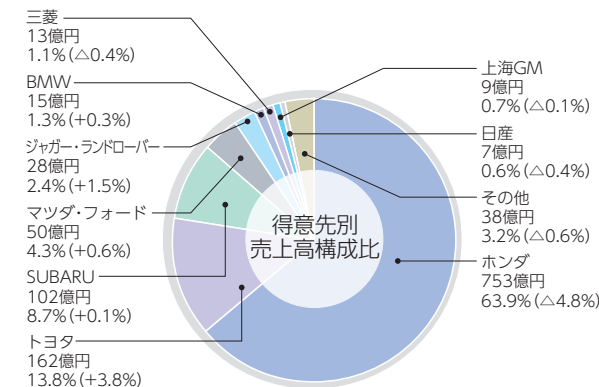


代表取締役社長
高尾 直宏

上期の新規受注の成果

ホンダ様からは日本3機種、北米2機種、中国3機種、アジア3機種を受注しました。フィットの2020年モデル以降の新たなモデルサイクルでは、現行モデルから受注原単位を大幅に増やしました。トヨタ様からは日本3機種、中国・欧州・南米で各1機種を受注しました。BMW様、ジャガー・ランドローバー様に加え、ベトナムでは、新たな取引先となるVINFAST様からタイにて受注を獲得しました。

得意先別売上高構成比



※ () 内の数値は、対前年同期の構成比増減を表しています。

上期業績

上期業績は、売上高1,177億円(前年同期比1.9%減)、営業利益48億円(同30.3%減)となりました。生産台数の増加により、車体部品売上が増加した一方で、新機種の立ち上がりが狭間となり、型設備売上が減少したことに加え、労務費等の費用増加も影響しました。

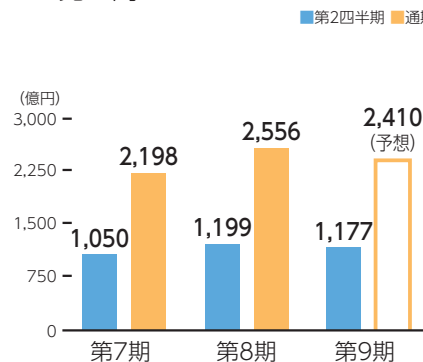
通期業績の見通し

下期は、日本の新機種立ち上がりの遅れによる一時的な生産台数の減少が見込まれますが、年明けには生産開始を予定しております。北米は労務費・製造費用の増加に歯止めがかかり、通期黒字化を目指します。

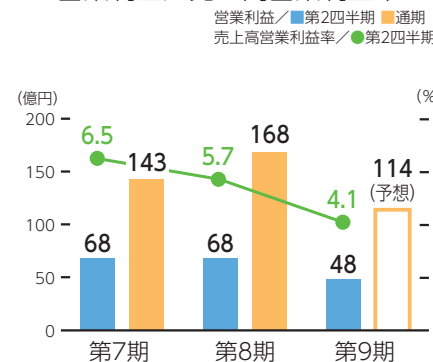
これらを踏まえ、当初の通期業績の見通しを修正し、売上高は2,410億円(前年比5.7%減)、営業利益は114億円(同32.2%減)、経常利益は115億円(同34.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は78億円(同25.5%減)を見込んでおります。

財務ハイライト

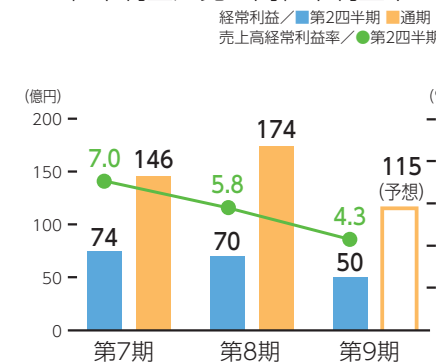
売上高



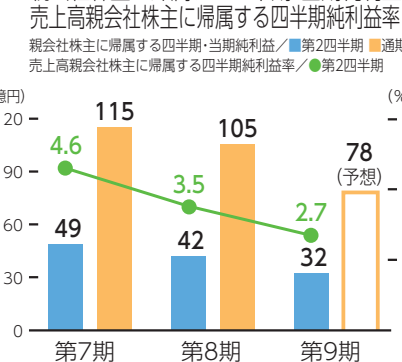
営業利益／売上高営業利益率



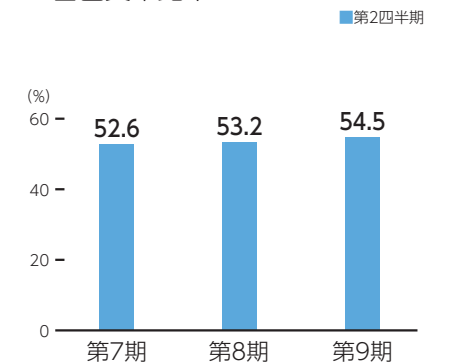
経常利益／売上高経常利益率



親会社株主に帰属する四半期・当期純利益



自己資本比率



新規受注戦略

当社初となる新たな車体部品を獲得

スロバキアの生産拠点G-TEKT Slovakia, s.r.o. (G-TES) 社が、ジャガー・ランドローバー様、BMW様に続いて3社目となるトヨタ自動車様から受注を獲得しました。

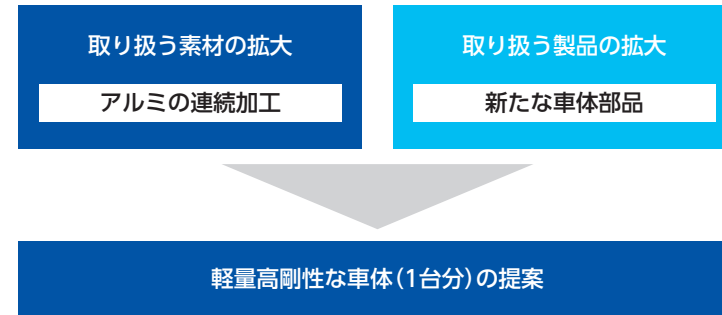
この受注部品は、当社にとって初めての生産となる新たな車体部品で、溶接加工や品質保証に、これまでとは異なるノウハウが求められます。

新たな領域へのチャレンジとして、車体1台分の提案を行う専門メーカーを目指す上で、大変重要な意味を持つビジネスになると確信し、現在、量産準備を進めています。

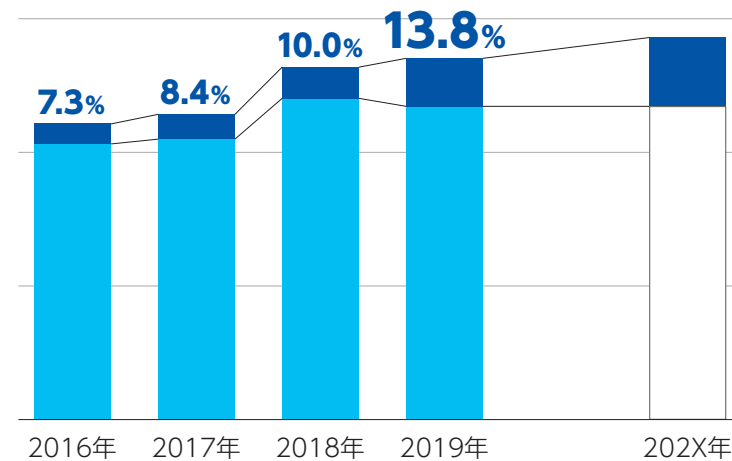
経営基盤の安定化に向けた他販強化

現在、トヨタ自動車様とのお取引は、日本、イギリス、中国など、世界6極でグローバルに展開しています。取引額も順調に拡大を続け、売上高に占める割合は、およそ14%に到達しました。この度のスロバキアG-TES社における新規受注を加えると、今後、トヨタ自動車様はますます重要なビジネスパートナーになると考えております。経営基盤の安定化という観点からも、引き続き、お取引の拡大を目指します。

受注拡大に向けた戦略



トヨタ自動車様向けシェアの推移



新たな領域へチャレンジし、受注拡大を目指します。

生産性向上への取り組みと設備販売強化

フルオートメーション化による収益向上

生産年齢人口の減少や、賃金の上昇を受け、今やグローバルな生産性の向上は喫緊の課題となっています。

このような中、当社では、工場のフルオートメーション化に向け、生産性向上への取り組みを加速しています。

プレスライン・溶接ラインともに、これまで人の目によって品質検査をしていたところを、カメラによる画像センサ技術と解析技術によって、正確な検査を実現しています。

また、投入や集積作業においては、これまで人の手によって行っていたところを、自動取り出し・集積装置を用い、自動化を進めています。

今後は工場内物流の無人化と合わせ、生産から出荷まで、フルオートメーション化を目指します。

カメラによる品質検査

自動集積装置



トランスファープレス機の無人ライン。自動化により、8人の作業者が0人に。

設備販売強化

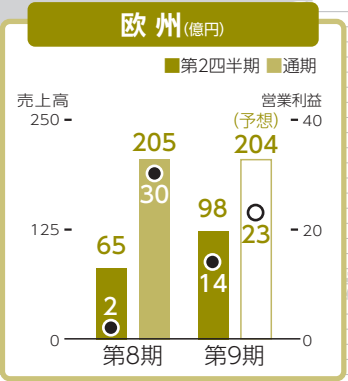
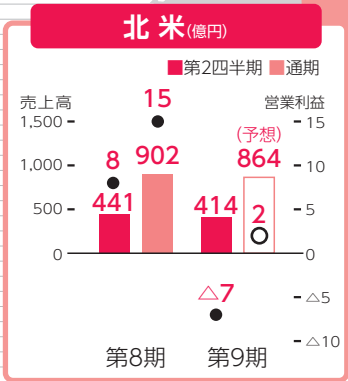
工場のフルオートメーション化を進めていくのに必要不可欠なのが画像センサ技術と解析技術です。当社はこれらの技術の開発を、生産性向上への取り組みの中で進め、当社の最も得意とする分野のひとつとなりました。

この一連の技術を用い、設備にパッケージングしたシステムとして商品化し、社外のお客様に対して販売強化を進め、新たな事業の柱として育ててまいります。

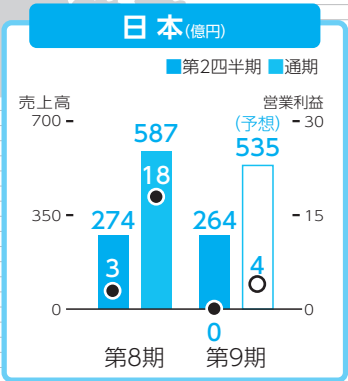
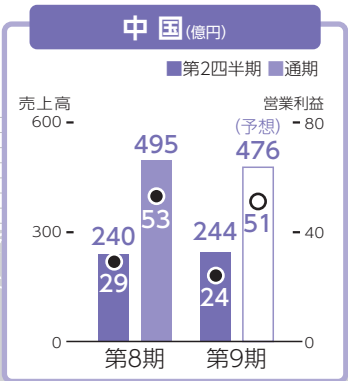
生産性向上に取り組みながら、新たな事業の柱を育てます。

グローバル競争に打ち勝つため、全世界対応の企業規模と展開力を実現。
コスト競争力のさらなる向上を図ります。

売上高は、量産売上が増加した一方、型設備売上の減少等により、41,410百万円(前年同期比6.1%減)となりました。営業利益は、型設備売上の減少の影響及び労務費の増加等により、△663百万円(前年同期は811百万円の利益)となりました。

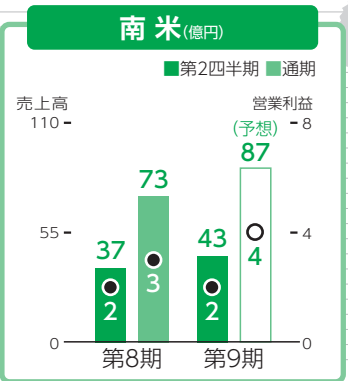
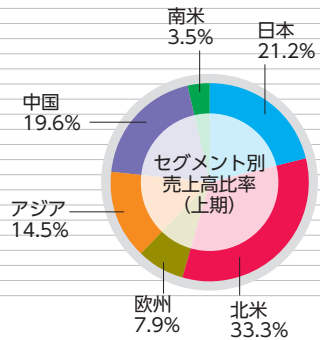


売上高は、量産売上の増加等により、24,414百万円(前年同期比1.9%増)となりました。営業利益は、製造経費の増加及び為替影響等により、2,449百万円(前年同期比14.9%減)となりました。

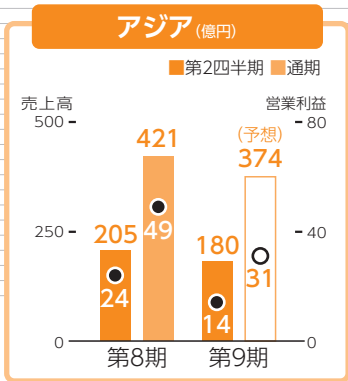


売上高は、量産売上新及び型設備売上の増加等により、9,813百万円(前年同期比50.6%増)となりました。営業利益は、増収効果等により、1,447百万円(前年同期比553.1%増)となりました。

売上高は、量産売上新が増加した一方、型設備・試作売上の減少等により、26,418百万円(前年同期比3.5%減)となりました。営業利益は、3百万円(前年同期比98.7%減)となりました。

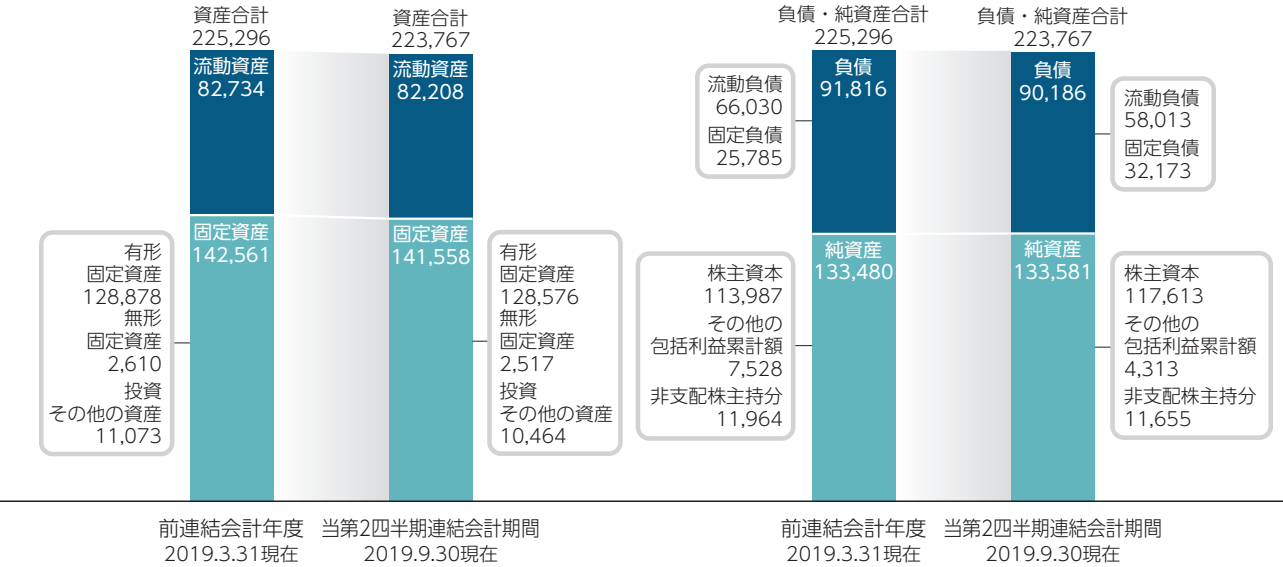


売上高は、型設備売上の増加等により、4,349百万円(前年同期比18.7%増)となりました。営業利益は、増収効果等により、206百万円(前年同期比21.7%増)となりました。

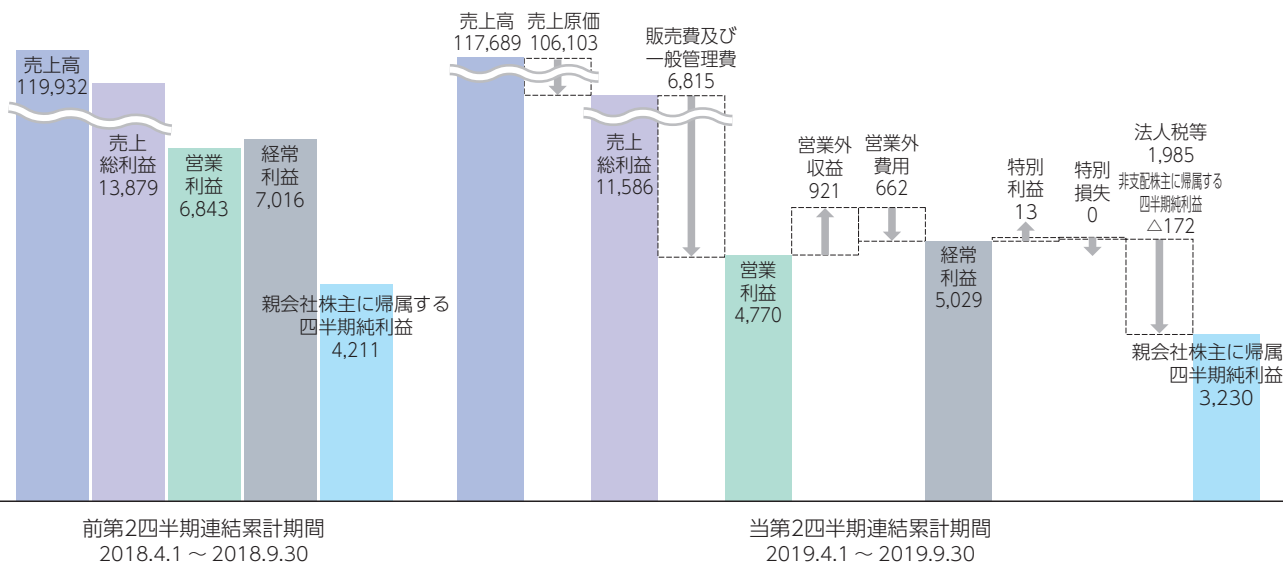


売上高は、量産売上の減少等により、18,008百万円(前年同期比12.0%減)となりました。営業利益は、量産売上の減少の影響等により、1,409百万円(前年同期比42.4%減)となりました。

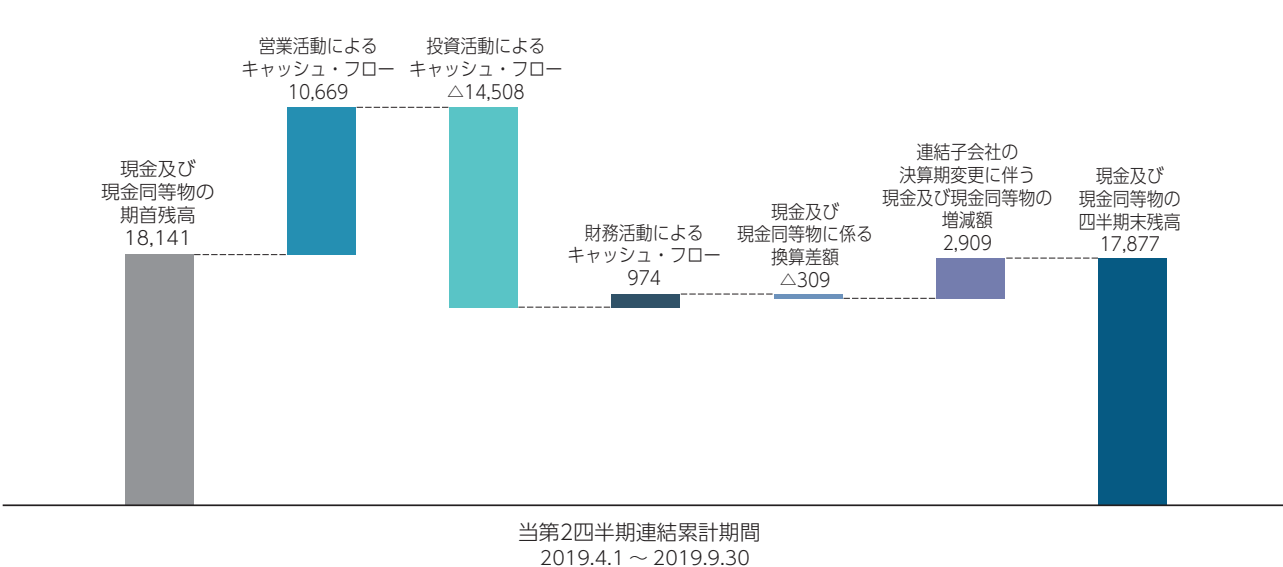
四半期連結貸借対照表 (要旨) (百万円)



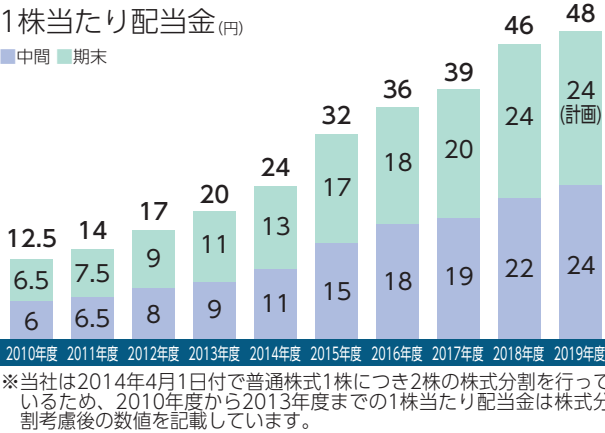
四半期連結損益計算書 (要旨) (百万円)



四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (百万円)



株主還元



株主還元については、経営の重要課題と認識しております。他方、当社は競争力ある軽量で高剛性な車体を開発・生産するため、たゆまない成長投資を続けることも当社への期待であると認識しております。

利益配分は、成長投資のため適切な自己資本を維持する内部留保の積み増しと、利益成長を反映した増配の維持をバランスよく行ってまいります。

今期は、業績を下方修正しましたが、機械的に減配することなく、連続増配を維持してまいります。

中間配当を2円増配して24円、通期48円とし10期連続増配を予定しております。

●会社概要 (2019年9月30日現在)	
■社名	株式会社ジーテクト
■創業	1947年4月1日
■設立	1953年11月4日
■資本金	4,656,227,715円
■代表取締役社長	高尾 直宏
■事業内容	車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売
■拠点	国内9拠点、アメリカ5拠点、カナダ1拠点、メキシコ2拠点、ブラジル1拠点、イギリス4拠点、ドイツ1拠点、スロバキア1拠点、中国6拠点、インド1拠点、タイ4拠点、インドネシア1拠点



<https://www.g-tekt.jp/>

決算情報やプレスリリースなどIR情報につきましては、当社ホームページからご覧いただけます。



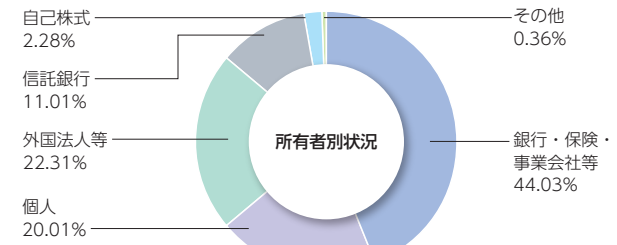
●役員 (2019年9月30日現在)	
代表取締役社長 社長執行役員	高尾 直宏
取締役 専務執行役員	石川 美津男 海外事業本部長
取締役 常務執行役員	吉沢 勲 事業管理本部長、 コンプライアンスオフィサー、法務部長
社外取締役	大胡 誠 弁護士
社外取締役	稲葉 利江子 津田塾大学 准教授、理学博士
常勤監査役	中西 孝裕
常勤監査役	田村 依雄
社外監査役	新澤 靖則 税理士
社外監査役	北村 康央 弁護士

常務執行役員	菊池 英次	北米地域本部長、JIC取締役社長、ATA取締役会長、 G-TAC取締役会長、G-NAC取締役社長
上席執行役員	藤澤 恭司	事業管理本部副本部長、経理部長、原価管理部長
執行役員	内山 雅保	南米地域本部長、G-KTB取締役社長
執行役員	高山 隆一	ATA取締役社長
執行役員	瀬古 浩	技術本部長
執行役員	矢端 志津男	品質保証本部長、購買部担当
執行役員	林 政行	アジア地域本部長、G-TEC取締役社長、 TGB取締役社長
執行役員	廣瀧 文彦	営業本部長
執行役員	原 栄光	技術本部副本部長、開発部長
執行役員	森下 泰一郎	欧州地域本部長、G-TEM取締役社長
執行役員	柿崎 明	技術本部副本部長
執行役員	水木 尚樹	中国地域本部長、APAC董事長総経理
執行役員	藤井 琢人	生産本部長、埼玉工場長、 リスクマネジメントオフィサー
執行役員	植木 恵一	SUBARU事業責任者、技術本部副本部長、 生産本部副本部長

経営環境の変化に柔軟に対応し、経営意思決定の迅速化を図るため、第8回定時株主総会を経て、取締役会の構成員数を9名から5名に減らし、スリム化を図りました。
また、多様性を経営レベルから実践するため、初の女性社外取締役を迎え入れております。

●株式の状況 (2019年9月30日現在)	
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	43,931,260株
株主数	8,353名

株式分布状況



大株主 (上位10名 敬称略)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
本田技研工業株式会社	13,035,098	30.04
菊池俊嗣	2,945,901	6.79
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR：FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND	2,850,000	6.57
TKホールディングス株式会社	2,194,344	5.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,965,615	4.53
株式会社ケー・ピー	1,480,800	3.41
高尾直宏	1,286,576	2.97
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,090,280	2.51
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,009,400	2.33
RE FUND 107-CLIENT AC	682,400	1.57

(注) 持株比率は、自己株式545,005株を控除して計算しております。

株主メモ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL.0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
公告の方法	当会社の公告は、電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

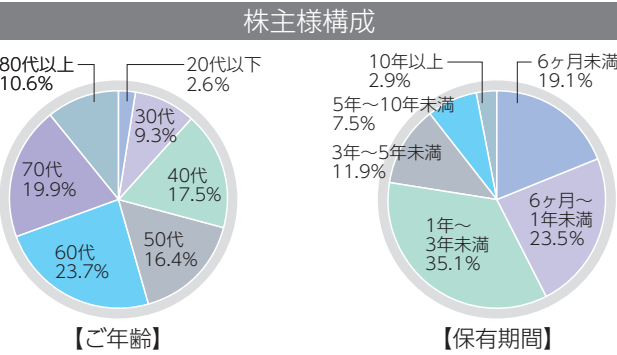
「株主様アンケート」集計結果のご報告

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

前回実施させていただきましたアンケートに1,129枚(回収率11.6%)のご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

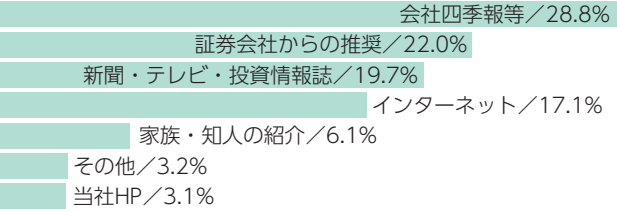
率直なご意見も頂戴し、今後の経営に役立ててまいりたいと考えております。

ここで、アンケート結果の一部をご紹介します。
(調査期間 2019年6月3日～2019年7月31日)



「株主様アンケート」集計結果

当社をお知りになったきっかけをお聞かせください。



当社株式の購入理由をお聞かせください。

